

寺報 善巧

発行
〒938-0862 富山県
下新川郡宇奈月町浦山497
白雪山 善巧寺
TEL (0765) 65-0055
FAX (0765) 65-0975
メール zangyou@box.email.ne.jp

七月十六・十九日 永代祠堂会

布教 高務 哲量 先生

寺
こよみ

七月

一日 音沢お講④

教化部会

七日 清掃奉仕

九日 内山常照寺

閉寺法要

一五日 祠堂会準備

永代祠堂会

一六日 中陣お講

仏婦物故者法要

一七日 寺族物故者法要

總代物故者法要

お初夜

一八日 戦没者追弔法要

ご満座

一九日 内陣法名法要

二四日 本山助成会



不思議な因縁によりて人間として生まれてきて、我執煩惱に執われて、生死や老病や愛憎や損得にかかずらって、いたずらに苦惱しつつ、地獄に沈みつつある身でありながら、そのことを知らず、大きな夢を見ているようにただのほほんと暮らしている、悲しむべき存在である我等に、いつからとも知らぬ間に、その悲しき恐ろしさの実態を知らしめて、その苦しみを抜き樂を与えようとされる大きな悲しみがありません。その大悲心が念仏の願いとなつて我等に与えられているのであります。わが名号をとらざる者をば極楽へむかえとると誓われている念仏往生の大誓願でありました。我等は今日この仏の誓願に信順して、南無阿弥陀仏南無阿弥陀仏と念仏している身に、仏はその功德の宝をひたさげて、法性一如の世界から来生して下され、我等が身に滲み込んで、こ

善巧方便

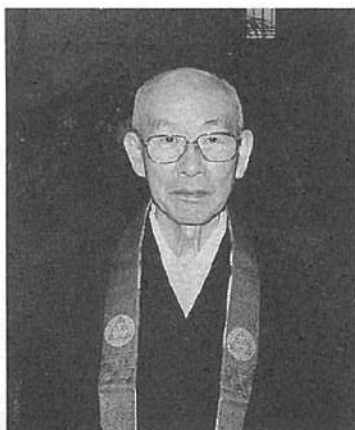
の煩惱の身を転じて菩提の身に育てあげ、娑婆の世界から浄土の世界に転進せしめつつあるのが、南無阿弥陀仏の願力の功德なんです。しかも人と生まれて誰でも「父さん、母さん」と親の名を呼びながら、その親に育てられてきたように、ただ口に南無阿弥陀仏／＼と仏さまの名を呼ぶだけの、た易い行業によつて、仏にして下さるなんて、誰も信ぜられんことではありませんのに、仏さまのお計らいによつて、仏に仕上げて下さっているなんて、そんなこと全く知りませなんだ、それが他力不思議ということよと聞かされて、それはそれは何と仏さまの善くも巧みなお手段（方便）をいただいているものよと目覚めて、何と何とうれしや願力（南無阿弥陀仏）さま、あら有難や阿弥陀さまよと仰ぐばかり尊とむばかり。 行信教教授 騰 瑞夢 先生

空華忌講話

(平成十二年)

本願寺派勸学

梯實圓和上 (五)



「自力・他力」というこの言葉ですね、これが一体どういうことを表現しようとしているのか、ということなんでございますが、自力というのは人間の計らいによつて物事を完成していることとすること。計らうということは、人間がああしようこうしよう、ああしたところなるというふうに計



画をして、あるいは物事を正確に判断をして決断をして行動していくこと、人間が自分を中心にしてものを考えていく、人間が主人公となつて物事を考えていく、そういう考え方を自力というんです。ですからこれはいうたら人間中心主義。で、人間の計らいというのを親鸞聖人は思議という言葉をあらわされまして。人間の思い計らいによつて物事を成就していることとすること。そして他力ということは、これは如来さまのお計らい。如来さまが主体となる。如来さまの考え方。如来中心主義といつてもいいだろうな。ここでは人間の計らいは完全に克服しなくちゃいけない。人間の考え方を、人間

の計らいというものを越えた、これは不思議、不可思議ですね。自力は思議の世界であり、他力は不思議の世界である。こういうふうにおつしやる。世界観が違ふんです。もつといいかえたら人間を主体としてものを考えていく考え方を自力というんです。如来さまを主体として考えていく考え方を他力というんです。だから世界観が全然違ふんです。自力とか他力というのはね、つじつま合わせの論理じゃないんです。むしろ世界観の違い、人生観の違いというものをあらわす言葉なんです。そういう点を私たちは注意しておかなければなりませんね。

ご開山はお使いになります。あるいは「利他円満の妙位無上涅槃の極果なり」というふううに親鸞聖人は教・行・信・証を全部利他という言葉であらわします。利他というのは、如来の利他力なんです。如来の利他の働きなんです。だから他力というのはね、利他、この「他」は如来さまのことじゃない、私のことなんです。仏さまから見た私のことが「他」なんです。他を利する、他を利益する力、一切の衆生を利益する仏さまの働きのことを利他力とこういうんです。だから利他力というのは仏さまの働きを仏さまの側からあらわしている言葉なんです。私の方から仏さまの働きをいつた言葉じゃないんです。これは実には曇鸞大師が「自力他力」といわれる時に他利と利他という言葉を使つて、如来の方からいえば利他と

さまの働きをあらわすから利他というんだ、これを他力というんだ、とこうおつしやるんですね。その考え方を実は親鸞聖人は受けるんです。そんな話をおつたらものすごい難しい教学論義になりますから、この辺にしておきます。

ただ、自力ということは人間中心、人間が主人公になつてものを考えていく、人間が主人公になつて働いている世界観、そういう人生観をあらわすんです。それに対して他力ということ、如来が衆生を救済するということ、仏さまが中心になつて、如来が主体となつて私が客体になる。阿弥陀さまの本願のお言葉はね、善導大師はうまく表現されましてね、二河白道の譬に。今日はその話してる時間はちょっとないんだけどね。あの本願のお言葉をどうおつしやつてるかといつたら、「汝、一心正念にしてただちに來れ、我よく汝を護らん」と

仏さまはおっしゃっている。あそこでは仏さまはね、「我」なんです。私たちは「汝」なんです。仏さまから「汝」といわれている者なんです。「私」じゃないんですね。「私」は「汝」なんです。

えらいややこしいいい方をするけれども、あなた方今日、この本堂にお参りになってますな。あなた方ね、仏さまの前に座つていらつしやるのか、あんたの前に仏さまが立っていらつしやるのか、どつちやと思う。自分の前に仏さまが立ってなさると見るか、仏さまの前に私が座つていると見るか。そんなもんおんなじこつちやないかというかも知れんが、違うんです。この本堂に入ってきたらね、例えば、本堂の中心はどこですか？って、もし私がお尋ねしたら、あなたは「どうお答えになりますかな。（「ご本尊さんです」）ん？ご本尊さんでしょうね。この本堂の中心は阿弥陀さん

や。というてもだいぶ端つこですよ。（笑）本堂の中心はこの辺でしょ。ね。けれども本堂の中心はどこですか、といったら、阿弥陀さまだ、というでしょ。その時あなた方の価値観は変わっているんです。ここでは俺のおるところが中心じゃないんだと、阿弥陀さまのいらつしやるところが中心なんだ。だったら阿弥陀さまが主人公のお家に私ら寄

私が仏さまを見ているのではなくて、私は仏さまに見守られている

んな、私はしょっちゅうお世話になつていんだから。けど、美術館で仏さまを見た時には、私は仏さまを見ているんです。仏さまに見られている人はめつたにないだろうな。美術館には仏さまを見にいきますね、仏さまに見守られに行くわけじゃないんだらうな。けど本堂は違うでしょ。本堂においてになった時は、あなた方仏さまを見にきましたら転換した。なんか違った。それが意識されたんだ。それが意識されてないから家に帰つたらすぐに元に戻るんです。私は、意識させるために今いうてますねん。（笑）お説教というのね、私が新しいことをいつてい

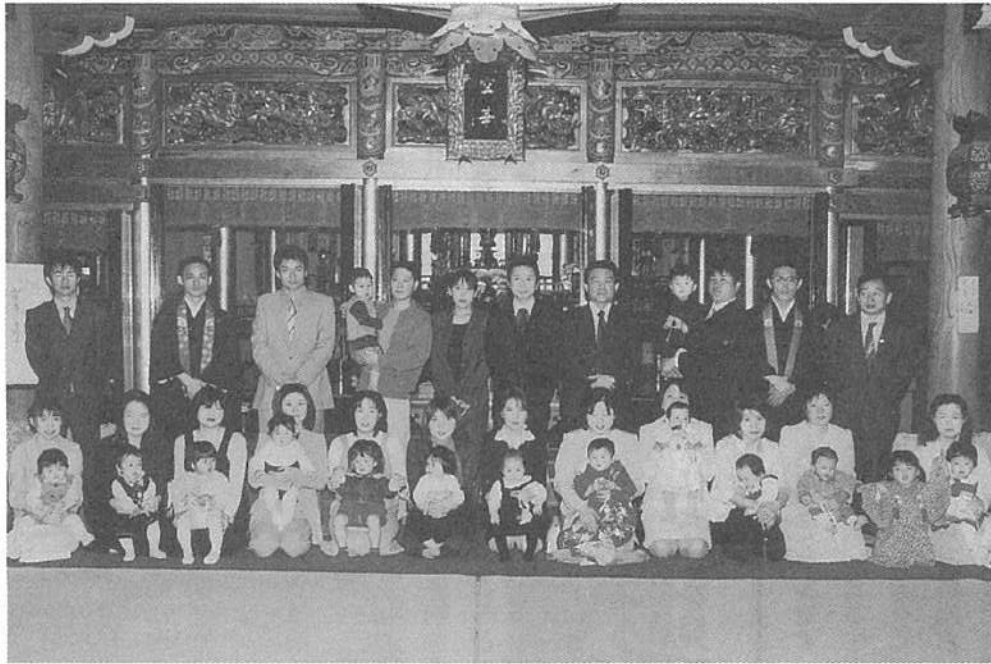
せてもらつてるんです。もしたら私の前に仏さまがいらつしやるんじゃないかと、仏さまの前に私は座らせていただいているんです。そうするとね、仏さまの前に座つた人と、私の前に仏さまが立っていると見るのとではだいぶ違います。これが美術館で仏さまを見るのと、本堂で仏さまを拜むのとの違いですね。あんまり美術館の悪口言つたらいか

たか、そつじやないんでしょ。仏さまに見守られていることを確認しに来たんでしょ。それで本堂に来たんですね。だから本堂にお参りしたら、帰つていく時に何か違う。よくね、お寺参つたらすつとします、とこういう。ラムネ飲んだんとちゃうで。（笑）あれはすつとすると

いう中にね、自分の今までのものの考え方、日常的なものの考え方がここへ来たいたらご本尊さまで、つて、そやからご本尊というんです。しかしその時に、ここでは私は仏さまの前に座つてい、私の前に仏さまが立っているんじゃない。私は仏さまの前に座らせていただいている。その時には、私は仏さまを見ているんじゃない、私は仏さまに見守られていることを確認するんですね。みなさん、それはお分かりいただける

でしょ。この違いが自力と他力の違いなんです。だから自力他力っていうのは別に不思議なことといっているんじゃないんです。あなた方が仏さまの前にお座りになった時のそのほんとの姿をあらわせば、こういういい方せずにはおれないんだ。それをご開山ははつきりとおっしゃつた。だからね、他力の「他」というのは、「私」なんです。ここでは阿弥陀さんが「我」なんです。「我よく汝をまもらん」、私がお前をまもつているぞ、とおっしゃる。あ、そうか、私はまもられている者だったんだ、見守られている者だったんだと気づくんです。他力というのは気づく世界なんです。気づかない者にはまったく分からない世界です。（つづく）





みんな生まれた！ あえてよかったね！

花の中の 初まいり

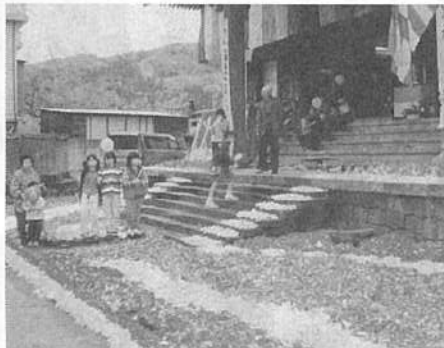
4/21

遠くは山形、京都、新潟から。お式を受けた赤ちゃんは十五人でした。仏さまの前で新しいのちを喜び合う暖かい初参式でした。

参受式のお子さん
野崎冷士・日奈代、遠藤幸登、川島レナ、本波葵、西中ねね、野崎ゆうと・かなむ、本波知夏、長沢安穂、中村由梨奈、中林裕佳、七沢泉月、佐々木俊介、北条靖彦
(敬称略)

北 日 本 新 聞

チューリップで境内鮮やか



境内にチューリップが咲き始め、境内は鮮やかです。花まつりでは、チューリップが主役です。

赤ちゃん誕生喜ぶ「花まつり」

赤ちゃんの誕生を喜ぶ「花まつり」は、今年も大盛況です。赤ちゃんの誕生を喜ぶ人々が多く参加しました。

赤ちゃんの誕生を喜ぶ人々が多く参加しました。赤ちゃんの誕生を喜ぶ人々が多く参加しました。

本 願 寺 新 報

チューリップ12万本で境内飾る

富山県宇奈月町・善巧寺（雪山俊隆住職）では、4月21日、花まつりとあわせ初参式が行われ、12万本のチューリップで飾られた境内（写真）は、華やいだ雰囲気になりました。

初参式を受ける15人の幼児をはじめ、隣町にある老人福祉施設の入所者や門信徒ら約100人が参拝。チューリップは、近くの球根を育てる農家から捨てられてしまう花をもらい、再利用したもの。小学1年からベテランのお年寄りまで総勢24人が1日ばかりで制作し、飾り付けた。

チューリップで満開の花まつりは、12年前に亡くなった前住職の隆弘さんが「お花いっぱい本堂で花まつりを」という夢を実現したもので、ことしで26回目となる。



太 子 会

4/11

今年は桜の開花が異常に早く、太子会の頃にはもう葉桜になりましたので、お花見を中止して若栗の真照寺前住職川崎秀貴師のご法話をゆつくり聞かせていただきます。

野 休 み 落 語 会

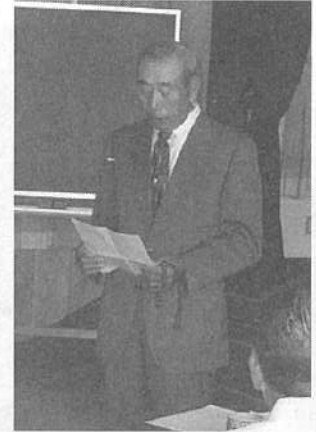
6/11

- 一、おはなし 永六輔
- 一、道灌 扇里
- 一、魂の入れ替え 扇橋
- 一、アリラン 李政美
- 一、欠伸指南 小三治



今年で二十五回目の落語会。大雨・雷の中、約三百人のお客さまがご来場。今回のゲストは歌手の李政美さん。満堂の観衆は、人の心を包み込むような歌声に魅せられました。

責任役員（総代長）野島義春氏に決まる



就任の挨拶から
今から約三千年前に、釈迦如来様がこの世に生まれ、私たちを救済するために数多くのお経をお説きになりました。法然聖人は

その中、浄土三部經に御自身の生死を離れる道を見出され、その念仏往生の法を親鸞聖人に伝授されたのであります。この尊い法を聞かれた私たちの祖先が、子孫のために残さねばならないと、立派な道場を立て法を守られたのであります。ただいま皆様も総代という委嘱書を頂

かれましたが、これは祖先の願いが私たちに伝わって総代という仕事を与えられたのだと思います。この意味において、祖先の意に叶うべく尊い法に遇い、道場を守っていかねばならないと思います。どうか皆さんと共に協力して頑張っていこうではありませんか。



臨時総代会 6/9

今年二月に逝去された責任役員の野畑一雄さんの後任者選出の為、臨時総代会が開かれました。住職から浦山九区の総代野島義春さんが推挙され、全員一致で承認されました。これに伴い、三部会が改めて構成されました。各部長には、総務嶋田久之氏、営繕部岡田実氏、教化部鬼原六義氏。総代委嘱書授与、一月から三月までの決算報告の承認、また、追加予算が提出、承認されました。

その他、本堂の雨どい、割れた瓦の取り替えなどの修理に関しては、営繕部会に一任して、迅速な処置をとることになりました。

また、シロアリの発生が危ぶまれましたが、次回の清掃奉仕の際に本堂下を一掃してから、改めて検査することになりました。



委嘱書授与



「住職お帰り！ 野島さん お寺を盛り上げていきましょう！」

新総代紹介

前回の寺報で紹介した新総代の方々です。



枥沢久志さん
(石 田)



開沢弘治さん
(枥 沢)



野畑松二さん
(枥 屋)



加藤友司さん
(浦 山)



中林 保さん
(下 立)

長女有花結婚

5/31

面映えて
華燭の宴や風薫る

善巧寺門徒会館主事を約十年務めた長女有花が、仏縁あって武生市の出雲路派林久寺へ嫁ぎました。お相手は行信教校で共に学んだ法友です。二人が大尊敬する梯和上の司婚、天岸先生のご媒酌といただきました。うなご縁をいただきました。



司婚者は梯實圓和上



KNBなどでお世話になった方々



ご媒酌人天岸浄圓先生ご夫妻



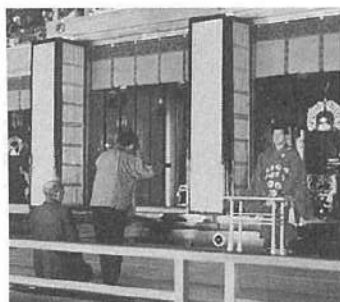
大河内昭爾先生と行信の先生方



雪ん子の仲間たち



善巧寺から参列した方々



帰敬式を受けた田中正夫さん、野崎和子さん



本山参拝



専精舎

専精舎と
ご本山参拝
第百七回専精舎夏講に今年もご縁をいただきました。
参加メンバー十五人。

5/21-23

清掃奉仕

4/14

快晴の四月十四日、総代、仏婦、お世話方での清掃奉仕が行われました。



営繕部から

本堂の雨どいや瓦などの修理は梅雨前に取り掛かるのが望ましいことから、至急見積もりをとることに。広く門徒の大家さんに参加をと話し合われましたが、今回は急を要したので、以前からお世話になっていいる大藪建設にお願いすることになりました。

教化部動き出す

教化部とは、寺の法要や行事を盛り上げる総代の教化機関です。まず代表者三名が顔合わせをしました。寺報にも積極的に参加するという話しも出て、早速今回から一つのコーナーを担当することに。(下記)

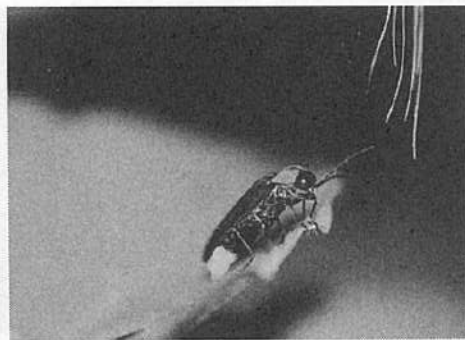
紹介したいご門徒さんやおもしろいニュースなどありましたら、お寺か代表鬼原六義さん(78-1339)までご連絡ください。

平成14年1月～3月
善巧寺一般会計決算書

(収 入)		
布施	収入	2,758,260
法要	懇志	2,296,000
年中	行	462,260
会費	収入	1,804,000
雑収	収入	0
前年度繰越金		0
合 計		4,562,260

(支 出)		
維持	費	451,252
宗派	課金	41,300
公租	公	0
諸会	課費	0
営繕	修理費	371,552
営保	修費	38,400
運	費	1,218,597
教化	費	132,035
法要	費	265,920
会議	費	42,767
門徒	接待費	16,340
事管	業務費	147,534
専門	理費	514,001
寄付	費	100,000
雑	費	0
人子	費	0
件備	費	1,800,000
合 計		3,469,849
残 高		1,092,411

帰ってきたホタル



最近では人工的に保護や繁殖でホタルを育てると耳

にしますが、自然のままにホタルが乱舞するところがありました。場所は宇奈月町栃屋十二区集落。ここに飛んでいるのは源氏ホタルで、少し離れた湧き水の流れる付近には平家ホタルが飛んでいます。近所の人に聞くとホタルが帰ってきたのは数年前からで、原因は諸説様々で分からないとか。百匹余のホタルを目にしたときでした。(K)



一七日 聞法会
釈隆弘祥月命日

寺
こよみ

九 月

二四日 雪ん子セレネ公演
二五日 雪ん子夏の定期野
外公演

寺
こよみ

八 月

一日 石田・生地お講
五日 雪ん子合宿
六日 釈俊之祥月命日
一日 青年盆会
一四日 盆踊り練習会
一五日 こども盆踊り
一六日 盆会
一七日 聞法会
二二日 雪ん子高田派仏教
婦人大会公演

「参拝旅行」

「ようこそようこそ」で知られる源左同行を訪れる旅。福井千福寺様に誘っていただいています。参加希望の方はお寺までご連絡ください。

期 日 平成14年 9 月下旬

日 程 初日 4:30 善巧寺集合
7:00 千福寺
7:30 福井IC—(北陸・名神・中国・浜田各高速道)
15:30 温泉津着、安楽寺参拝(才市同行のお寺)
温泉津温泉泊
2日目 8:00 西楽寺参拝—石見銀山跡—日御崎灯台—
出雲大社見学—昼食—鳥取県青谷町—願
生寺参拝(源左同行のお寺)—浜村温泉泊
3日目 9:00 浜村温泉—鳥取砂丘観光—八鹿(昼食)—
和田山IC—(中国・名神・北陸各高速道)
18:00 福井IC
18:20 千福寺着
21:00 善巧寺着

参加費用 43,000円(富山—福井間の旅費は別)

ご持参いただくもの

念珠・門徒式章(門徒輪袈裟)・聖典
常備薬・保険証写し

永代祠堂会

一六日 中陣お講
一七日 仏婦物故者法要
一八日 寺族物故者法要
一九日 総代物故者法要
ご講師 戦没者追弔法要
内陣法名法要
高務哲量先生

清掃奉仕お願い

七月七日午前八時

今回の清掃奉仕は本堂の縁の下も一掃します。どうぞあなたのお寺を守っていきましよう。お力お願いします。

青年盆会

八月十三日

青少年がお寺で過ごす時間はえ難いひとときです。

いづも盆踊り

八月十五日



ご家族おそろいでどうぞ。練習日は十四日。

盆会

八月十六日

阿弥陀経を読んで盂蘭盆会をお勤めします。

雪ん子劇団

大忙しの夏

高田派婦人会連合大会

八月二十一日

三重県総合文化センター
浄土真宗十派の一つ高田派のご本山が三重県津市にあります。その婦人会大会からお招きを受けました。

まことの保育大会

八月二十四日

宇奈月国際会館セレネ

夏の定期野外公演

八月二十五日

善巧寺境内
大いちょうの木の下で

前々住職釈俊之七回忌
前住職釈隆弘十三回忌
十一月五日勤修

詳細は後日お知らせします。

合 掌

謹んでお知らせします。

第二十三代宗主勝如上人(大谷光照前門様)は六月十四日九十歳でご遷化になりました。お葬儀は七月十八日午後一時から本願寺総御堂で営まれます。

* * *

善巧寺のホームページが完成しました。お寺は直接人と人が逢うことを大切にしていますが、時代の流れの中で活用出来るものには有効に活用していきたいと思っています。二次利用も兼ね、住職の勉強にもなるのでどうぞご理解を。

* * *

梅雨が上がると暑い時期に入ります。永代経、お盆などなど、この夏も本堂は篤い心で賑わうことでしょう。

